

【第1部】基礎編

Q1. 答え：終止形

解説：文末・句点。「私は知らない」。

Q2. 答え：打消の助動詞「ず」連体形「ぬ」

解説：「言は」未然＋「ぬ」＋体言「人」。連体形。「物を言わない人」。

Q3. 答え：打消の助動詞「ず」已然形「ね」

解説：「知ら」未然＋「ね」＋「ば」(原因)。「知らないので、答えない」。

Q4. 答え：連用形

解説：「言は」未然＋「ず」＋「して」(接続助詞、連用接続)。「物を言わないで、立ち去る」。

Q5. 答え：連用形「ざり」

解説：「知ら」未然＋「ざり」＋過去「けり」。「知らなかった」。

Q6. 答え：打消連体形「ぬ」

解説：「咲か」未然＋「ぬ」＋体言「里」。「花が咲かない里」。

Q7. 答え：打消已然形「ね」

解説：「思は」未然＋「ね」＋「ど」(逆接)。「思わないけれども、口に出す」。

Q8. 答え：終止形

解説：文末。「雨が降らない」。

Q9. 答え：打消連体形「ざる」

解説：「知ら」未然＋「ざる」＋体言「人」。「知らない人」。

Q10. 答え：連用形

解説：「食は」未然＋「ず」＋「して」。「食べないで、眠った」。

Q11. 答え：打消「ず」連体形「ぬ」

解説：下二段「寝(ぬ)」未然形「ぬ」＋可能「らる」未然形「られ」＋打消「ず」連体形「ぬ」＋体言「夜」。「眠れない夜」。体言の前なので連体形「ぬ」。「らる」の活用：られ・られ・らる・らるる・らるれ・られよ。

Q12. 答え：打消の助動詞「ず」の已然形「ね」

解説：「来(こ)」未然＋打消「ず」已然形「ね」＋「ば」(原因)。「来ないので、待つ」。完了「ぬ」はナ変型(な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ね)で已然形は「ぬれ」、「ね」は命令形。命令形「ね」に接続助詞「ば」は付かないので、「～ねば」が完了になることはない。

Q13. 答え：終止形

解説：文末。「私はお仕えしない」。

Q14. 答え：打消已然形「ざれ」

解説：「知ら」未然＋「ざれ」＋「ば」。「知らないので、答えない」。

Q15. 答え：打消連体形「ぬ」

解説：「登ら」未然＋「ぬ」＋体言「人」。「嵐山に登らない人」。

Q16. 答え：終止形

解説：文末。「まだ書かない」。

Q17. 答え：打消「ず」已然形「ね」（「こそ」の結び）

解説：「見」（上一段「見る」未然形）＋打消「ず」已然形「ね」。係助詞「こそ」を受けて已然形で結ぶ。「一晩中思うけれど、夢は見ない」。

Q18. 答え：連用形

解説：「吹か」（四段未然形）＋打消「ず」連用形。読点で切れて下の「波静かなり」に続く中止法なので連用形（ここで文が終わるなら終止形）。「風が吹かず、波が静かだ」。

Q19. 答え：打消連体形「ぬ」

解説：「見」上一段未然＋「ぬ」＋体言「人」。「月を見ない人は、世にいない」。

Q20. 答え：打消已然形「ね」

解説：「言は」未然＋「ね」＋「ばこそ」（強調）。「言わないからこそ、奥ゆかしい」。

【第2部】標準編

Q21. 答え：連用形

解説：「ず」＋動詞「立ち止まる」（中止法）。

Q22. 答え：打消連体形「ぬ」

解説：「来たら」（四段動詞「来たる」の未然形）＋打消「ず」連体形「ぬ」＋体言「山」。「春がやって来ない山」。
（「来（き）」＋完了「たり」の未然形「たら」と分ける説明もある。どちらでも「ぬ」は未然形に付いて体言に続くので打消の連体形）

Q23. 答え：打消已然形

解説：「食は」未然＋「ね」＋「ば」。

Q24. 答え：連用形「ざり」

解説：「ざり」＋過去「き」連体形「し」（「～たこと」の意）＋格助詞「を」。「知らなかったことを嘆く」。

Q25. 答え：終止形

解説：文末。

Q26. 答え：連体形「ざる」

解説：「あら」未然＋「ざる」（連体形で「～ないこと」の意）＋格助詞「を」。「心ある人ではないことを嘆く」。

Q27. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。「お仕えしないで、退出する」。

Q28. 答え：打消連体形「ぬ」

解説：「言は」未然＋「ぬ」＋体言「こと」。「(相手が) 言わないことを、尋ねる」。

Q29. 答え：已然形

解説：「ざれ」＋「ば」。

Q30. 答え：終止形

解説：文末。

Q31. 答え：打消已然形

解説：「行か」未然＋「ね」＋「ば」。

Q32. 答え：打消連体形

解説：「見」未然＋「ぬ」＋体言「夜」。

Q33. 答え：連用形

解説：「ざり」＋完了「つ」連体形「つる」＋体言「夜半」。「雨が降らなかった夜中」。

Q34. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。

Q35. 答え：打消已然形

解説：「言は」未然＋「ね」＋「ど」（逆接）。

Q36. 答え：打消連体形

解説：「通は」未然＋「ざる」＋体言「人」。

Q37. 答え：連用形

解説：「来（こ）」（カ変未然形）＋「ず」＋「して」。「待っていたが人が来ないで、日が暮れてしまった」。

Q38. 答え：打消連体形

解説：「名乗ら」未然＋「ぬ」＋体言「人」＋係助詞「ぞ」。「ぞ」の結びは形容詞「怪し」の連体形「怪しき」。「名乗らない人が怪しい」。

Q39. 答え：打消已然形

解説：「給は」未然＋「ね」＋「ば」。

Q40. 答え：已然形

解説：「あら」未然＋「ざれ」＋「ば」。

Q41. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。

Q42. 答え：打消「ず」連体形「ぬ」

解説：下二段「あらはる（現る）」未然形「あらはれ」＋打消「ず」連体形「ぬ」＋体言「人」。「姿を現さない人／露見しない人」。体言の前なので連体形「ぬ」。

Q43. 答え：連体形

解説：「定まら」未然＋「ざる」（連体形で「～ないこと」の意）＋格助詞「を」。「心が定まらないことを嘆く」。

Q44. 答え：打消已然形

解説：「知ら」未然＋「ね」＋「ばこそ」（強調）。「こそ」の結びは形容詞「恋し」の已然形「恋しけれ」。「知らないからこそ、いつそう恋しい」。

Q45. 答え：終止形

解説：文末。

Q46. 答え：打消連体形

解説：「住ま」未然＋「ぬ」＋体言「人ら」。

Q47. 答え：連用形

解説：「ざり」＋過去「けり」已然＋逆接「ども」。

Q48. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。

Q49. 答え：打消の助動詞「ず」の已然形「ね」

解説：下二段「隠る」未然形「隠れ」＋打消「ず」已然形「ね」＋「ば」（原因）。「月が隠れないので、なお明るい」。完了「ぬ」はナ変型で已然形は「ぬれ」、「ね」は命令形。命令形「ね」に「ば」は付かないため、「～ねば」は完了にはならない。

Q50. 答え：連体形

解説：「通は」未然＋「ざる」＋体言「もの」。

Q51. 答え：連用形

解説：方丈記冒頭。「ず」＋「して」（連用接続）。

Q52. 答え：打消連体形

解説：「知ら」未然＋「ぬ」＋体言「間」。

Q53. 答え：打消已然形

解説：「言は」未然＋「ね」＋「ばこそ」。「こそ」の結びは過去「けり」の已然形「けれ」（「あり」はラ変の連用形）。「言わなかったからこそ、（無事で）いられたのだ」。

Q54. 答え：連用形

解説：四段動詞「思ひ寄る」の間に係助詞「も」が入った形（「よら」が未然形）＋打消「ず」のザリ系列連用形「ざり」＋過去「けり」連体形「ける」（「～たこと」の意）＋格助詞「を」。「思いもよらなかったことを嘆く」。

Q55. 答え：連用形

解説：「告げ」（下二段「告ぐ」未然形）＋「ず」＋「して」。「人に知らせないで、夜のうちに出て行ってしまった」。

Q56. 答え：打消連体形

解説：「吹か」未然＋「ぬ」＋体言「夜」。

Q57. 答え：打消已然形

解説：「あら」未然＋「ね」＋「ば」。

Q58. 答え：連体形

解説：「吹か」未然＋「ざる」＋体言「夜」。「嵐が吹かない夜も、やはり恐ろしい」。

Q59. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。

Q60. 答え：打消連体形

解説：「詠ま」未然＋「ぬ」（連体形で「～ないこと」の意）＋格助詞「を」。「私が詠まないことを、人々はみな不思議がる」。

Q61. 答え：打消已然形

解説：「あら」未然＋「ね」＋「ば」。

Q62. 答え：已然形

解説：「食は」未然＋「ざれ」＋「ば」。

Q63. 答え：連用形

解説：「あら」（ラ変未然形）＋打消「ず」連用形＋係助詞「は」。「ずは」で「～ないならば」と仮定を表す。この「ず」を未然形とする説もあるが、このドリルでは連用形とする。「心ある人でないならば、これを理解しない」。

Q64. 答え：打消連体形

解説：「知ら」未然＋「ぬ」＋体言「人」。

Q65. 答え：打消已然形

解説：「訪は」（四段「訪ふ」未然形）＋「ね」＋「ば」（原因）。「あなたが訪ねて来ないので、待ちわびる」。

Q66. 答え：連用形

解説：「ざり」＋過去「き」連体形「し」（「～たこと」の意）＋格助詞「を」。「詠まなかったことを嘆く」。

Q67. 答え：終止形

解説：「語る」（四段終止形）＋助動詞「べし」の未然形「べから」＋打消「ず」。文末なので終止形。「このことは、決して人に話してはならない」。

Q68. 答え：打消連体形

解説：「渡ら」未然＋「ぬ」＋体言「人ら」。

Q69. 答え：打消已然形

解説：「知ら」未然＋「ね」＋「ば」（原因）。「心の奥がわからないので、頼りにできない」。「えへず」は「～できない」。

Q70. 答え：打消連体形

解説：「解せ」（サ変未然）＋「ざる」＋体言「人」。

Q71. 答え：終止形

解説：「風吹かず（連用）、波荒からず（終止）」。

Q72. 答え：打消連体形

解説：「知ら」未然＋「ぬ」＋体言「こと」。

Q73. 答え：打消已然形

解説：「登ら」未然＋「ね」＋「ば」。

Q74. 答え：打消「ず」の連体形「ぬ」

解説：断定「なり」未然形「なら」＋「ぬ」＋体言「さま」。未然形に付き、下が体言なので打消の連体形。「この世の人ではない様子である」。

Q75. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。

Q76. 答え：打消連体形

解説：「知ら」未然＋「ぬ」＋体言「身」。

Q77. 答え：打消已然形

解説：「祈ら」未然＋「ね」＋「ど」（逆接）。

Q78. 答え：打消連体形

解説：「吹か」未然＋「ざる」＋体言「夜」。「風が吹かない夜は、波も静かだ」。

Q79. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。

Q80. 答え：打消連体形

解説：「通は」未然＋「ぬ」（連体形で「～ないこと」の意）＋格助詞「を」。「心が通わないことを嘆く」。

【第4部】入試レベル

Q81. 答え：打消「ず」連用形「ざり」

解説：「拝ま」（四段「拝む」未然形）＋打消「ず」連用形「ざり」＋過去「けり」已然形「けれ」＋「ば」（原因）。下に助動詞「けり」が付くのでザリ系の連用形。『徒然草』第五十二段（仁和寺にある法師）。「年をとるまで石清水八幡宮にお参りしたことがなかったので」。

Q82. 答え：打消已然形

解説：「見え」（下二段「見ゆ」未然形）＋打消「ず」已然形「ね」＋接続助詞「ども」（逆接）。「見え」は未然形と連用形が同じ形だが、「ねども」の「ね」は打消（完了「ぬ」なら「見えぬれども」）。初句「秋来ぬ」の「ぬ」は、連用形「来（き）」に付く完了「ぬ」の終止形。『古今和歌集』藤原敏行の歌。「秋が来たと目にははっきり見えないけれども、風の音で（秋が来たと）はっと気づかされたことだ」。

Q83. 答え：終止形

解説：「あら」未然＋「ず」。「物のあわれを知らない人ではない」。

Q84. 答え：打消連体形

解説：「知ら」未然＋「ぬ」（連体形で「～ないこと」の意）＋格助詞「を」。「人が知らないことを笑ってはならない」。

Q85. 答え：打消已然形

解説：「知ら」（四段未然形）＋受身「る」未然形「れ」＋打消「ず」已然形「ね」＋「ばこそ」。「こそ」の結びは形容詞「心安し」の已然形「心安けれ」。「人に知られないからこそ、気が楽なのだ」。

Q86. 答え：打消「ず」連体形「ぬ」

解説：下二段「出づ」未然形「出で」＋打消「ず」連体形「ぬ」＋体言「夜」。「月が出ない夜は、なお暗い」。体言の前なので連体形「ぬ」。「出で」は未然形と連用形が同じ形だが、完了「ぬ」なら体言の前は連体形「ぬる」（出でぬる夜）になるので、体言にじかに付く「ぬ」は打消。打消「ず」の活用：（ず）・ず・ず・ぬ・ね・〇。

Q87. 答え：連用形

解説：「ざり」＋過去「き」連体「し」＋体言「こと」。

Q88. 答え：打消連体形

解説：「仕うまつら」未然＋「ぬ」＋体言「こと」。「宮仕えをしないことが、長くなってしまった」。文末の「なりぬ」の「ぬ」は、連用形「なり」に付く完了「ぬ」の終止形。

Q89. 答え：打消已然形

解説：「あら」（ラ変未然形）＋「ね」＋「ば」（原因）。「頼りにする人もいないので、ただ仏に祈る」。

Q90. 答え：連体形

解説：「来（こ）」（カ変未然形）＋「ざる」＋推量「べし」。「べし」は終止形に付くが、ラ変型に活用する語（「ず」のザリ系など）には連体形に付くので「ざる」になる。「雨が降っているので、今夜は人も来ないだろう」。

Q91. 答え：連用形

解説：「見え」（下二段「見ゆ」未然形）＋「ず」＋「して」。「人にも姿を見せないで、山里に長年こもっていた」。

Q92. 答え：打消連体形

解説：「見せ」（下二段未然）＋「ぬ」＋体言「人」。

Q93. 答え：打消の助動詞「ず」の已然形「ね」

解説：下二段「絶ゆ」未然形「絶え」＋打消「ず」已然形「ね」＋「ば」（原因）。「嵐の音が絶えないので、一晩中眠れない」。完了「ぬ」はナ変型で已然形は「ぬれ」、「ね」は命令形。命令形「ね」に「ば」は付かないため、「～ねば」は完了にはならない。

Q94. 答え：連用形

解説：「ざり」＋過去「き」連体形「し」（「～たこと」の意）＋格助詞「を」。「物のあわれを理解しなかったことを後悔する」。

Q95. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。「私は歌を詠まないで、ただ昔の歌を愛する」。

Q96. 答え：打消連体形

解説：「言は」未然＋「ぬ」（連体形で「～ないこと」の意）＋格助詞「を」。「物を言わないことを尊いとする」。

Q97. 答え：打消已然形

解説：「止ま」（四段「止む」未然形）＋「ね」＋「ば」（原因）。「雨がやまないので、出発できない」。「え～ず」は「～できない」。

Q98. 答え：打消連体形

解説：「行か」未然＋「ざる」（連体形で「～ないこと」の意）＋格助詞「に」＋「しかず」（及ばない）。「行かないのがいちばんだ」。

Q99. 答え：連用形

解説：「ず」＋「して」。

Q100. 答え：打消「ず」連用形「ず」＋接続助詞「して」

解説：下二段「入る」未然形「入れ」＋打消「ず」連用形「ず」＋接続助詞「して」。『古今和歌集』仮名序（紀貫之）の一節。「力も入れないで天地（の神々）を動かし、目に見えない鬼神をもしみじみと感じ入らせ、男女の仲をもうちとけさせ、勇猛な武士の心をもなごやかにするのは歌である」。連用形＋「して」で「～なくて／～ないで」の意。なお「見えぬ」の「ぬ」は、体言「鬼神」に続く打消「ず」の連体形。